

製品名: UBR5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19585**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	309kDa

抗原情報

遺伝子名	UBR5 UBR5; EDD; EDD1; HYD; KIAA0896; E3 ubiquitin-protein ligase UBR5; E3 ubiquitin-protein
別名	ligase; HECT domain-containing 1; Hyperplastic discs protein homolog; hHYD; Progesterin-induced protein
遺伝子 ID	51366.0
SwissProt ID	O95071
免疫原	抗血清はヒト EDD 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 1-50

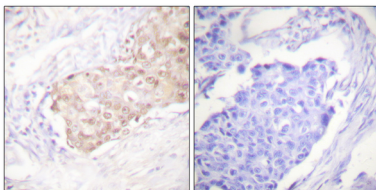
背景

この遺伝子は、HECT (E6-AP カルボキシル末端に相同) ファミリーに属するプロゲスチン誘導性タンパク質をコードしています。HECT ファミリータンパク質は E3 ユビキチンタンパク質リガーゼとして機能し、ユビキチンを介したタンパク質分解の標的となる特定のタンパク質です。この遺伝子は、さまざまな癌で破壊されている染色体 8q22 に局在しています。この遺伝子は、細胞の増殖や分化の調節に関与している可能性があります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: N 末端ルール経路の構成要素である E3 ユビキチンタンパク質リガーゼ。N 末端ルールに従って不安定化する特定のアミノ末端残基を持つタンパク質を認識して結合し、ユビキチン化とそれに続く分解を引き起こします (類似性による)。 mRNA の成熟や転写調節に関与している可能性があります。細胞周期の進行の制御に役割を果たしている可能性があります。腫瘍抑制機能を有する可能性がある。DNA 損傷応答において DNA トポイソメラーゼ II 結合タンパク質 (TopBP1) を制御する。胚体外発生において重要な役割を果たす。、その他: ユビキチンチオエステル形成にはシステイン残基が必要である。、経路: タンパク質修飾; タンパク質ユビキチン化。、PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化される。、類似性: HECT (E6AP 型 E3 ユビキチンタンパク質リガーゼ) ドメインを 1 つ含む。、類似性: PABC ドメインを 1 つ含む。、類似性: UBR 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。、サブユニット: TOPBP1 に結合する。、組織特異性: 広く発現している。精巣に最も多く存在し、脳、下垂体、腎臓でも高レベルで発現している。、

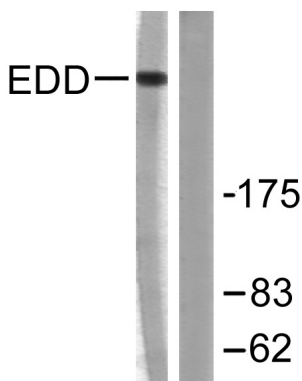
研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解;

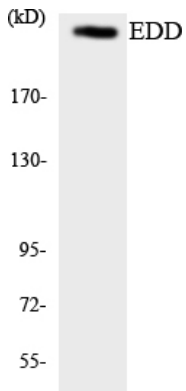
画像データ



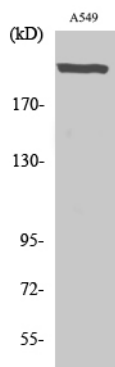
EDD 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



EDD 抗体を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



EDD 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



UBR5 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。